

2021 年度 自己点検・評価報告書

経済学研究科評価分科会

2022 年 3 月

基準 1 理念・目的

- ・ 学部・研究科の目的を適切に設定しているか。
- ・ 学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

【1】2020 年度の自己点検・評価および外部評価で課題となった事項

なし

【2】2021 年度の方針・改善計画（および中期的な改善計画）

特になし

【3】2021 年度の方針・改善計画（および中期的な改善計画）

特になし

基準 4 教育課程・学習成果

- ・ 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。
- ・ 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。
- ・ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
- ・ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。
- ・ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。
- ・ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。
- ・ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【1】2020 年度の自己点検・評価および外部評価で課題となった事項

なし

【2】2021 年度の方針・改善計画（および中期的な改善計画）

2020 年度自己点検評価の過程で、新たに前期、後期と課程別の教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーなどを設定済みである。

2020 年度より会社経営などに携わる外部講師による SDGs コースを開始している。2021 年度は春学期と秋学期にそれぞれ 2 名、計 4 名の経営者招聘を実施した。

年一回学生との意見交換会を開催している。今後も実施し、随時学生の声を教育改善に取り入れていきたい。

【3】2021年度の取組みの点検・評価と2022年度以降の方針

大学のディプロマ・ポリシーが改訂されたのに伴い、経済学研究科のディプロマ・ポリシーを改訂する作業の途上である。議論を重ね、大学の方針に則ったディプロマ・ポリシーを作成したい。

2023年度からカリキュラム改正が行われるのに伴い、2022年度には経済学研究科としても次回改正時期である2027年までを見据えたカリキュラム改正作業を実施していく。

2020年度より外部講師によるSDGsコースを開始し、学生にも非常に好評である。一方で、ABIC（国際社会貢献センター）提供の学部授業（Business and Japanese People）においてTAを担当した研究科の学生から、「この授業がとても有益であるので研究科の学生も受講したい」との意見が出されている。この授業は実務経験者の方々による授業であり、日本の経営について学ぶ良い機会であることは間違いない。これら二つの学びの場を今後どのように学生に提供することが可能か、検討していきたい。また授業の他に、経営者と学生との懇談会の機会を検討したい。

IBSPの授業においては、外部講師を含め語学能力や実務知識を有する講師を非常勤で採用していきたい。

年一回学生との意見交換会は2022年度も実施し、学生の声を教育改善に取り入れていきたい。

基準5 学生の受け入れ

- ・ 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。
- ・ 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。
- ・ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
- ・ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【1】2020年度の自己点検・評価および外部評価で課題となった事項

なし

【2】2021年度の方針・改善計画（および中期的な改善計画）

国際ビジネス専修入試に関して、2020年度に改善を開始した。これまで書類審査と面接試験により選抜していたが、これらに加え面接の際、簡単な基礎学力を問うこととした。さらに2022年度入試より、英語の外部試験とGMAT/GREの利用を始めている。これらにより、応募者の基礎的な学力を確認し、適切な学生を選抜することが可能になる。

【3】2021年度取組みの点検・評価と2022年度以降の方針

2023年度経営学専修の入試より、専門試験科目の見直しを行った。より広範で代表的な分野の科目をそろえ、応募者の学力を適切に測れるように改めた。これに伴い、募集要項内の経済学専修や経営学専修における専門科目の出題範囲や参考テキストに関する内容を全面的に書き換えた。

国際ビジネス専修の入試の見直しを随時実施してきた。2020 年度入試から応募者の基礎的な学力の有無を測るため、面接時に試験を実施することになった。2022 年度入試からは、GMAT/GRE の利用を推奨している。今後も適切な入試制度を維持しつつ、定員前後の優秀な学生数を確保できるよう努めたい。2022 年度以降、モスクワ大学とのダブル・ディグリー制度による受け入れの検討を始める予定である。理工学研究科が推進する地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム (SATREPS サトレップス) に本研究科の教員が参加している。2022 年度国費外国人留学生 SATREPS 枠に、本研究科としてエチオピアの大学からの国費留学生を推薦中である。

学生の応募を促進するため、以下のような作業を開始している。国際ビジネス専修の教育内容を紹介するために、経営者講座や卒業生の声、入学後の学習スケジュールや過去のリサーチ・ペーパーの欄などを設け、ホームページの充実を図っている。学生から、多くの海外の学生に本研究科の取り組みを周知するためには大学ホームページ以外の SNS の利用が有効であるとの意見が出された。加えて、国際ビジネス専修の同窓会を結成し、卒業生在学生の交流を深めながら、本研究科の教育内容についても発信をしていきたいとの要望も出され、検討を開始している。

基準 6 教員・教員組織

- ・ 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。
- ・ 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。
- ・ 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。
- ・ ファカルティ・ディベロップメント (FD) 活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。
- ・ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【1】2020 年度の自己点検・評価および外部評価で課題となった事項

なし

【2】2021 年度の方針・改善計画（および中期的な改善計画）

2021 年度第 3 回研究科委員会において、今後の人事計画について以下 2 点が審議された。

1. 博士後期課程担当教員の補充について

今後 10 年以内に半数の教員が定年を迎えるため、随時補充の人事を行う必要があることが確認された。特に、経営学専修の担当教員は現在 3 名であり 2021 年度 2 名の昇任人事を実施する。

2 博士前期課程の担当教員補充について

IBSP 担当教員の拡充のため、経済学部と経営学部から英語で専門教育ができる教員について、2021 年度の人事で大学院への選任人事を実施する。

学生との意見交換会において、「投資」などの科目の開設に対する要望が提出された。選任を進めてい

る教員の担当科目であり、学生の要望に沿った人事補充が実施されることとなる。

【3】2021年度の取組みの点検・評価と2022年度以降の方針

2021年度第6回研究科委員会において、博士後期課程への2名の昇任人事が決定した。これにより、3名しかいなかった経営学専修の後期担当者が5名に増員されることとなった。第8回研究科委員会において、博士前期課程への2名の選任人事が決定した。これによって証券投資論やファイナンス理論という人気のある分野の充実が図られることとなった。さらに、企業論を担当する兼任人事も1名実施した。

2022年度以降について、現時点で昇任や選任人事の予定はない。

2022年はデロイトトーマツ税理士法人において、マネージングディレクターという要職にあり国際金融業務における講義を英語で実施できる非常勤講師の方をお迎えすることになっている。さらにカナダやブルガリアの大学教員の方々に、国際金融やゲーミフィケーション（ゲームの要素を使ったマーケティング手法）をご担当いただけることになっている。授業科目の一層の充実を図れるものと期待する。

基準7 学生支援

- ・ 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。
- ・ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【1】2020年度の自己点検・評価および外部評価で課題となった事項

なし

【2】2021年度の方針・改善計画（および中期的な改善計画）

2020年度末卒業生より、留学生の日本での就職活動支援について2点の提案があった。

1 卒業生が経験した就職活動の詳細な内容をデータベース化すること。これには、就活プロセス、言語の要求水準、SPI試験の内容などを含み、後輩が就職活動をより効率的に進めることを可能にする。インターンシップ先の情報も同様にデータベース化する。

2 在校生が卒業生へ連絡を取りやすい体制を作ること。

キャリアセンターとの打ち合わせの結果、上記に加え、留学生用の英語表記のサポートカードを作成することが確認された。

2021年7月19日開催の学生との意見交換会の際、キャリアセンター作成の就活に関するビデオや研究科作成の卒業生インタビューを視聴した。さらに上記1によって作成した、就活・インターンシップ情報データベースの内容と一緒に確認した。質問も多く出て、就職について大学からの支援が得られるのか不安を感じていた学生に非常に好評であった。

さらにこの意見交換会において、学生から現役生も含めた同窓会を結成し、交流を活発にしていきたい

いと提案があった。今後、教員・学生間で開催を企画検討することになっている。

【3】2021年度取り組みの点検・評価と2022年度以降の方針

留学生の日本での就職活動支援について、学生との懇談会において、以下2点の提案が提出された。

- 1 卒業生が経験した就職活動の詳細な内容をデータベース化
- 2 在校生が卒業生へ連絡を取りやすい体制作り

キャリアセンターとの打ち合わせの結果、上記に加え、留学生用の英語表記のサポートカードを作成することが確認された。

1のデータベース化はエクセルファイルによって作成されたが、今後も改訂作業を必要とする。2の体制作りについては、特に同窓会結成によって、途上にある。学生から現役生も含めた同窓会のVisionとMissionの作成は終了し、Google Formによるアンケート発信中である。今後世界に散らばった卒業生の情報収集と交流が始まるものと期待する。

理工学研究科を中心に参加しているJST次世代研究者挑戦的研究プログラムに、本研究科の学生も応募することができた。結果は不採用であったが、非常に恵まれた学生支援プログラムに応募する機会を得ることができた。

2022年度も学生との意見交換会を通して、学生からの支援に関する要望を積極的に取り入れていきたい。

基準9 社会連携・社会貢献

- ・ 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。

【1】2020年度の自己点検・評価および外部評価で課題となった事項

なし

【2】2021年度の方針・改善計画（および中期的な改善計画）

例年夏に開催していたインターンシップについて、コロナが収束次第、実施実績のある企業の方々に受け入れを依頼していく。学生からの要望も強く出されているので、早期に実施していきたい。

さらに卒業生の支援を受け、新たなインターンシップ先も開拓中である。コロナの状況によっては、2022年度中の開始も可能であると考えている。

【3】2021年度取り組みの点検・評価と2022年度以降の方針

【2】と同じ